

スマホに到着時間お知らせ

送迎バス今更

名古屋のITベンチャーが開発したバス運行管理システムの利用が、全国の幼稚園や保育園に広がっている。保護者は送迎バスの到着予定時刻をスマートフォンを通じて受け取れるほか、園への欠席も自動で連絡できる。職員の負担も軽くなり、導入施設は八百を超えた。

(坂田奈央)



パソコンやタブレット端末で、バスの運行状況や園児の欠席を確認できる＝名古屋市中区のヴィッシュで

このバス運行管理システムは、IT企業のヴィッシュ(名古屋市)が開発した「バスキャッチ」。バスに衛星利用測位システム(GPS)車載器を設置し、利用者が手持ちのスマホや携帯電話などに専用アプリをダウンロードすれば、バスの位置や到着時刻をいつも確認できる。

保護者は子連れでバスを待ち続けたり、乗り過ごす事態を避けられ、園側も問い合わせの対応に追われないう。口コミで知った保護者から園に導入を依頼するケースも増えているという。

二〇〇四年創業の同社は〇六年に名古屋市内の自動車学校から要望を受けてバスキャッチを開発。「送迎バスがなかなか来ない」といった利用者への不満解消が目的だった。すでに大手IT企業が自治体を中心に同様のシステムを提供していたが、ヴ

名古屋のIT企業 システム好評

ヴィッシュは月額料金をライバル企業より安くし、自動車学校や幼稚園、スイミングスクールなどでの利用が増えた。現行の料金はバス二台で二万円だ。

バスの運行情報のほかに、保育現場の声を受け無料で機能を追加したのも人気の理由だ。

発熱などによる急な欠席連絡も保護者はスマホのボタンを押すだけで、園側は自動で欠席リストを作成できる。インフルエンザの流行時などに電話対応や職員の情報共有に追われなくなった。

文書で伝えていた連絡事項もスマホなどに一斉送信し、保護者が読んでかどうかの確認も可能。手作りしていたバスの運行ルートも、園児の住所を入力するだけで設定でき「本来の業務に専念しやすくなった」という園の評判も広がる。

藤井恵社長(三)は「スマホの普及で一段と導入が進み、IT化が遅れていた現場の負担を軽減する事例が増えてきた」と話す。本年度中に全国で千施設への納入を目指している。